

IDEHA 雪崩事故防止講習会 クラス4 国際雪崩レスキュー講習会の開催

雪崩レスキューの技術は年々高まり、冬山での活動がより確実で安全に進化しております。今回 IDEHA 雪崩事故防止講習会は、雪崩に深く係わる活動をしているプロ、エキスパート向けの「クラス4」を開催いたします。マニユエル、藤村、榊原の三講師による北海道を中心に少しずつ日本で普及している ICAR (International Commission for Alpine Rescue) 勧告の雪崩捜索&救助の知識、実技を習得することにより、雪崩への露出と脆弱性を学び、より安全な調査活動と効果的な雪崩レスキューを実施できるよう国際基準の最新技術をお届けします。東北地域の雪崩に従事している警察や消防など公的機関の救助隊隊員、山岳ガイド、スキーガイド、雪崩教育実践者らにも広く講習受講の機会を提供し、ICAR 基準の雪崩レスキュー知識の普及を図る目的です。

【主催】 IDEHA 雪崩事故防止講習会

【日時】 2017年12月19(火), 20(水), 21(木)日 2泊3日間

【日程】 1日目：終日卓上講義、2日目、午前卓上講義、午後実技、3日終日実技

【開催場所】 湯殿山スキー場周辺エリア

【講師】

- ・主講師：Manuel Genswein (マニユエル・ゲインスワイン氏、スイス在住)
- ・準講師兼通訳：藤村知明 (カナダ雪崩協会プロフェッショナルメンバー、カナダ在住)
- ・準講師兼通訳：榊原健一 (雪氷災害調査チーム、北海道医療大学)

【受講料】 43,000円 (講習代、テキスト代、宿泊費別途)

【宿泊】 湯殿山スキー場内ゲストハウス (素泊まり1泊1,000円、他に夕食1,500円程度)

【募集受講者数】 20名 (定員になり次第締め切らせて頂きます。)

【受講資格】

- ・IDEHA 雪崩事故防止講習会クラス3講習修了者、公的機関の救助隊員、登山・山岳ガイド、スキーガイド従事者、雪崩教育実施者等
- ・マムートバリヴォックス S、マムートパルス、ピープス DSP、ピープス Pro、トラッカーⅢの雪崩トランシーバー (旧称：雪崩ビーコン) を使用している方
- ・複数雪崩埋没者の捜索 (訓練) の経験がある方

【事務局体制】

- ・ IDEHA 雪崩事故防止講習会 事務局
〒990-0022 山形県山形市東山形二丁目 10-24
tel : 090-7067-0667 mail : ideha@khaki.plala.or.jp

【講習内容】

- はじめに：「雪崩死亡原因について」、「雪崩レスキューと生存するツールの基本概念」
Introduction: Factors of mortality, Elementary concepts of avalanche rescue and survival tools
 - 雪崩トランシーバー基礎：「現場捜索での応用が利くように 457kHz トランシーバーのテクノロジーと重要な基本概念」、「トランシーバーの安全点検の構成 - グループチェックの必要性」、「トランシーバーの電波干渉問題について」
Avalanche transceiver basics: Elementary concept of 457kHz transceiver technology and importance in the practical search application, Components of Transceiver Safety - Group Check, Interference issues
 - 雪崩デブリの掘り出し方策：「スノーベルトコンベヤー法」、「ポジションプロービング法」
Excavation strategies: Snow conveyor belt, Position probing
 - 雪崩トランシーバーのアドバンスド捜索テクニック：「複数の埋没時における技術的&戦術的な捜索方法」、「深く埋もれた埋没者に対する捜索方法と掘り出しテクニック」
Advanced avalanche transceiver search techniques: Multiple burial search strategies - technological and search tactical solutions, Deep burials - search strategy and excavation technique
 - プロブ捜索方策：「スポット・プロービング」、「コース・プロービング・テクニック」、「ファインサーチ・プロービング・テクニック」
Probe strategies: - spot probing, - Coarse search probe lines technique, - Fine search probe line techniques
 - リーダーシップとレスキュー戦術の留意事項：「雪崩現場でのマネージメント」、「雪崩レスキューに関するリスクマネージメント（危険度 - 有益性の留意点）」
Leadership and rescue tactical considerations: Accident site management, Risk management in avalanche rescue (risk-benefit considerations)
- Triage



写真-1-雪崩トランシーバーを高さ約3mの位置に置き、深く埋もれた埋没者に対する捜索方法を解説する

©ABE Mikio

【講師】

■ 主講師：Manuel Genswein（マニエル・ゲインスワイン、43歳） スイス在住



高山レスキュー国際ミッション（ICAR）雪崩部会委員、国際登攀と登山連盟（UIAA）研究集会メンバー、山岳軍隊学校国際協会（IAMM、NATO：北大西洋条約機構、北米の8ヶ国が加盟）雪崩レスキュー講師

1974年1月15日スイス生まれ、幼少の時期よりスキー、登山、そして登攀に情熱を持ち、過去23年間雪崩レスキューについて雪崩トランシーバー（ビーコン）テクノロジー、手法テクニック、そして現場ストラテジーを発展開発してきた。各国の「講師への訓練」を最優先にこれまで29カ国でプロフェッショナルや山岳軍隊に対し教えている。1998年以来、ICAR

（International Commission for Alpine Rescueの略：高山レスキュー国際ミッション）の雪崩部会（avalanche commission）のメンバーとして活動し、ゲインスワイン氏が考案した最新の救助や搜索方法は、「best practice：最善の訓練方法」としてICAR勧告（ICAR recommendation）に2017年4月30日に採用されました。また、雪崩レスキューの埋没者掘削の方法やプローブの搜索方法の新しい国際基準に関してUIAA（International Climbing and Mountaineering Federation：国際登攀と登山連盟）の研究集会のメンバーの一員としても活動している。そして、ISSW（International Snow Science Workshop：国際雪科学研究集会）やICARにて寒冷地科学やテクノロジーに関して多くの学術論文を発表してきた。最も活発的に貢献したことは雪崩トランシーバー（日本ではビーコンと呼んでいる）に必要な電波法ETS300718を欧州にて基準確立させた。雪崩専門家としてスイス軍に務めたことがあり、NATO（North Atlantic Treaty Organization：北大西洋条約機構）やIAMM（International Association of Military Mountain Schools：山岳軍隊学校国際協会）を含む欧州と北米の8カ国で山岳軍隊に雪崩レスキューを教えている。

また、ゲインスワイン氏のこれまで考案した搜索方法は、世界各国の雪崩救助、雪崩教育、そして雪崩啓蒙に関係する団体で採用され、様々な教科書に標準的な方法として紹介されている。CAA（Canadian Avalanche Association：カナダ雪崩協会）もゲインスワイン氏の研究した方法や技術の多くを取り入れようとITP（Industrial Training Program：産業訓練プログラム）の一つである旧名AvSAR（Avalanche Search and Rescue：雪崩搜索&レスキュー）の講習会内容に2014年に一度検討しました。我が国でもゲインスワイン氏が考案したスノーシャベリングなどの多くの救助方法の幾つかは、紹介されている。ゲインスワイン氏の提案する最新の救助方法、ならびに構造化された最新の搜索方法の訓練が、日本で初めて講習されたのは、2015年12月、北海道大手稲パラダイスヒュッテにて開催された第1回国際雪崩レスキュー講習会だった。ゲインスワイン氏の提唱する救助・搜索方法、そして訓練の有用性については、今まで参加した雪氷災害調査チームのガイド、自衛隊職員、防災航空隊員、研究者、北海道雪崩研究会、雪崩事故防止研究会、北海道バックカントリーガイドネットワーク、日本勤労者山岳連盟によって高く評価された。

■ 準講師兼通訳：藤村 知明（40歳） カナダ・レベルストック在住



©ABE Mikio

カナダ雪崩協会プロフェッショナルメンバー、カナダ雪崩協会レベル1正講師、カナダ雪崩協会AvSARAD正講師兼試験官、カナダ山岳協会アプレントラススキーガイド、カナダ雪崩協会2016年Service Award受賞、（公社）日本雪氷学会正会員、セルカークタンジャーヘリススキーガイド

1976年11月19日佐賀県唐津市に生まれ、18歳まで大阪で育った後、1995年8月語学留学にカナダ・クランブルック市に移住した。1999年ファーニーアルパインリゾートでボランティア・スキーパトロールとして雪崩に携わり始めた。2001年1月、カナダ雪崩協会（以降、CAA）レベル1を受講し修了した。その後、ファーニーでプロ・スキーパトロールとして3年間経験を積んだ。2003年、著者ブルース・トレンパーの「雪崩

リスクマネジメント」の第3章から第8章の翻訳に携わった。2006年11月CAA雪崩誘発爆発物取り扱い講座を受講した。そして、2007年3月カナダ雪崩協会レベル2を修了した。2008年11月には、CAA雪崩レスキュー医療講座、2009年5月CAA上級雪崩気象講座、同年9月CAA雪崩ハザードマップ講座、2011年11月CAA雪崩レスキュー講座を受講し修了した。2007年秋からはレベルストックマウンテンリゾートにて雪崩テクニシャン兼プロ・スキーパトロールとして勤務し、かつ2008年からCAAレベル1講習会の見習い講師として5年間訓練、2013年、CAAレベル1の準講師として認められ、2014年からはITPレベル1正講師として活動している。2014年11月以降、CAAのAvSAR見習い講師として訓練し、2016/17年からは講習会の名称が2017年夏に変わった「Avalanche Search and Rescue Advanced Skills」の正講師兼試験官として活動している。2011年以降、アヴァランチ・カナダ(Avalanche Canada 旧名:カナダ雪崩センター)の2.5日間の雪崩技術トレーニングレベル1&雪崩コンパニオンレスキューを日本各地で一般向けに発信し、2015年からはGenswein氏と日本全国で活動している。

■ 準講師兼通訳：榊原 健一（49歳） 札幌在住



北海道医療大学 准教授。（公社）日本雪氷学会 会員日本雪氷学会 北海道支部 雪氷災害調査チームメンバー、日本イカール委員会委員、北海道雪崩研究会 理事（副会長）、雪崩事故防止研究会 会員、日本山岳会 会員、カナダ雪崩協会 準会員。

1968年2月11日奈良市生まれ。2006年より札幌に移住し、2008年より、雪崩に関連した研究、教育に携わる。2011—2012年度 科研費 挑戦的萌芽研究「雪中における音場計測と音声明瞭度評価」研究代表。2013年12月、日本雪崩ネットワーク雪崩業務従事者Level 1修了。2015年よりカナダ雪崩協会準会員。2015年2月に雪氷災害調査チーム編「山岳雪崩大全」山と溪谷社を共同執筆。雪氷災害調査チームのメンバーとして雪崩事故調査に関わり、また、北海道雪崩講習会、雪崩事故防止セミナー等で、講師として雪崩教育に携わる。2016/17年シーズンに、藤村知明と共に、Genswein氏による雪崩サーチ&レスキュー講習会の講師として参加した。